

豊能町の教育について

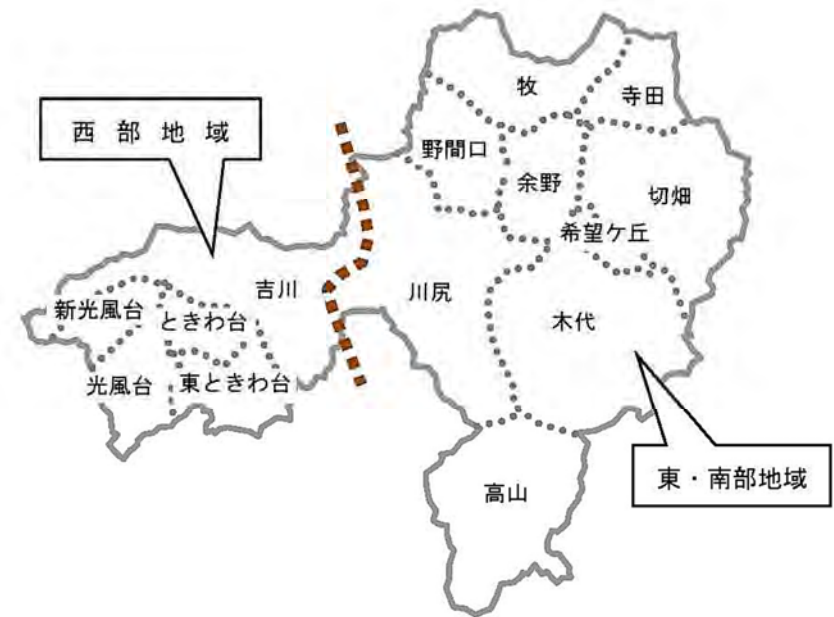
学校の再編・統合について

令和2年1月

豊能町教育委員会



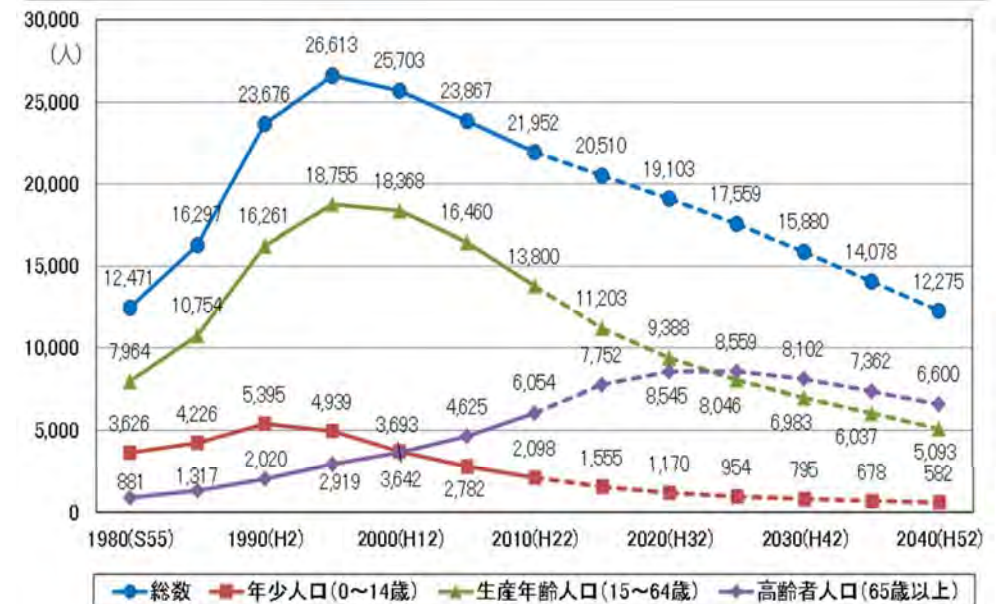
「いなか」の顔と「まち」の顔を併せ持つ



「いなか」の顔と「まち」の顔を併せ持つ



豊能町の人口推計



今、学校は

9年間をつなぐ教育＝ **小中一貫教育**

(全国の8割以上)

豊能地区(3市2町の全てで実施)

豊中市 59校

池田市 14校(義務教育学校1校含む)

箕面市 22校

豊能町 6校

能勢町 1校



小中一貫教育の現状

施設分離型小中一貫校



施設一体型小中一貫校



箕面市「とどろみの森学園」

平成20年4月開校

関西初 施設一体型小中一貫校

平成20年(2008年)32人

→令和元年(2019年) 約810人



「滝の道ゆずる」

箕面市「彩都の丘学園」

平成23年4月開校

箕面市2校目の施設一体型小中一貫校

平成23年(2011年)72人

→ 令和元年(2019年)約1240人



「モミジージュ」

池田市 細郷学園

平成27年4月開校

池田市立細河中学校を **増築・改修** して開校

平成27年(2015年)521人
→ 令和元年(2019年)500人



「ふくまるくん」

能勢町 能勢ささゆり学園

平成28年4月開校

6小学校と2中学校を1つの小中一体型の学校

平成28年(2016年)580人
→ 令和元年(2019年)480人



「お嬢」「るりりん」

再編・統合の基本的な考え方

(文科省の手引きより)

- 児童生徒の教育条件を良くする
- 地域状況に配慮する
- 小規模校の継続、学校の統合等は首長の判断

全国状況

- ・全国の市町村 1724
- ・半数余り 少子化による
学校の再編が課題
- ・小学校＋中学校..... 30,000校
- ・1年間 500校減少



豊能町の児童生徒数（転出入がない場合）

	現在	5年後	10年後
東地区 小学校＋中学校	249	→ 168	→ 109
西地区 小学校＋中学校	698	→ 549	→ 421
計	947	→ 717	→ 530

再編の検討経過（1）

- 平成29年8月
「小中一貫教育・学校再配置についての方針(案)」
の取り纏めを町長から指示
- 平成30年1月
「検討結果を教育総合会議で町長に提示
- 平成30年2月 教育大綱に
「保幼小中一貫教育の推進と望ましい教育環境の実現」が
盛り込まれる



盛り込まれた具体的な内容（平成30年2月）

①町立小中学校は、一つにまとめて「一体型小中一貫校」

- ・設置場所 吉川中学校敷地等
- ・開校時期 令和5年4月
- ・通学方法 通学バス
- ・給食方法 自校調理方式

②保育所・幼稚園は、東西に「認定こども園」

- ・設置場所 吉川中学校敷地周辺
- ・開園時期 令和5年4月



再編の検討の経過（2）

- 平成31年3月 塩川町長就任
- 令和元年6月
「東西にそれぞれ小中一貫校を設置する場合の
課題と方策」について町長から意見を求められる。
- 8回、意見交換や学習会を開催する。
8月より、先進地視察も行いながら検討を進める。
8月より、「豊能の風」を町HPに掲載
- 令和 元年11月 検討結果を取りまとめ町長に報告する

再編の検討の経過(3)

「東西に 小中一貫校を設ける」再編・統合(案)が示される

- ・ 令和2年1月
教育総合会議で、東西それぞれに小中一貫校を設置する場合の課題と方策について意見交換する
- ・ 令和2年1月
「東西それぞれに小中一貫校を設置する」(案)が町長より示される
- ・ 令和2年1月～ 「説明会」を開始する
- ・ 令和2年2月 第1回「教育フォーラム IN 豊能」を開催



再編の検討の経過(4)

どのような教育環境が必要か？

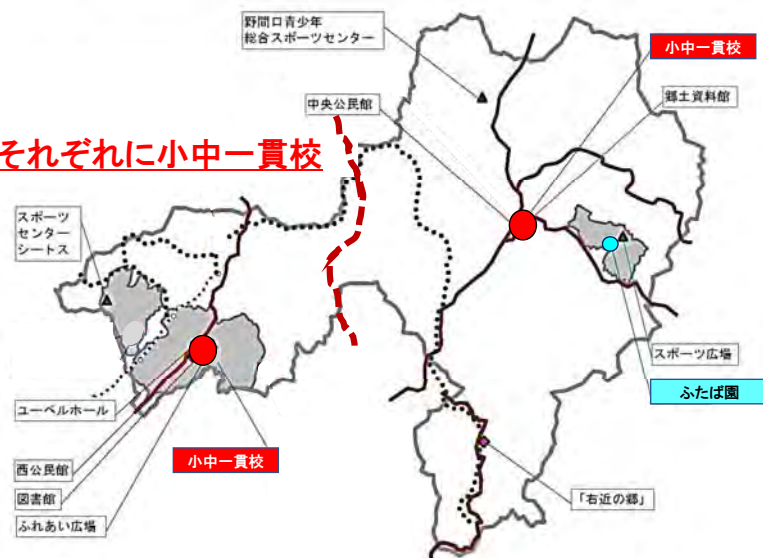
＜そのポイント＞

- 1) 保幼小中一貫教育を進めるには
→ 地域の力が必要。地域と共に。
- 2) 小規模化への対応
→ 地域との関わり方 大事。
- 3) 魅力ある学校を目指すには
→ 地域の特色を活かした取り組みが必要。
- 4) 地域の子ども
→ 地域全体で見守り、育てる



地域とともにある学校づくり

東西 それぞれに小中一貫校



東西に小中一貫校を設ける 再編・統合 「東地区の小中一貫校」(案)

- ・ 設置場所・・・東能勢中学校敷地を予定
- ・ 開校時期・・・令和5年4月を完成予定
- ・ 改修方法・・・現校舎を改修、一部増築



東西に小中一貫校を設ける 再編・統合

「西地区の小中一貫校」(案)

- ・設置場所・・・吉川中学校敷地等を予定
- ・開校時期・・・令和7年4月を完成予定
- ・改修方法・・・現校舎を長寿命化改修
- ・こども園・・・設置場所等調整
(検討中)



教育環境の充実

・小中一貫教育に必要な教室や施設設備の整備

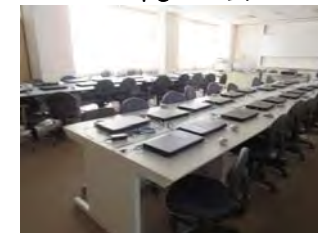
教室



理科室



PCルーム



ラーニングルーム



手洗い場



給食室



写真：池田市立細郷学園

東西地区で 教育環境に差はでない

- ・子ども達の人数が減るとどうなる？
→ 先生の数には減りません。
- ・先生の数 → 学級数により配当
- ・先生の加配(+α)
→ 教育課題や研究内容により配置
- ・小規模化Ⅰ → 教える内容は変わらない
- ・小規模化Ⅱ → 指導方法や、指導形態に
工夫が必要
- ・中学校の教科調整
→ 小規模化でどこも課題、兼務

少人数化への対応

「町内小学校すべての学年が1クラスに
＝クラス替えができない」

「小規模化のメリットを最大限に生かす」

→ 一人ひとりを丁寧に指導できる。

コミュニケーション力や人間関係力を養う

- ・ 集団作り、人間関係作り—研修、調査、研究学校
- ・ 縦割り、異学年活動を計画的に
- ・ 幼小、小小、小中の交流や合同行事を取り組む
- ・ 地域、保護者の皆さんの関わりを計画的に
- ・ 東、西地区に「学校運営協議会」を設置して検討



少人数化への対応(2)

京都市立大原学院(70人規模)



～ 先進校に学ぶ ～

「この学院で学んで良かった」
という子どもたちを育てる

スクールバスの導入によって①

東地区の子ども達(朝1便、夕方3便)

- ・ 体力低下が進む(歩くことが基本)
→ 体力向上策(ラジオ体操、サーキットトレーニング)
- ・ 時間的な制約を受ける
→ 一斉下校の時間設定



スクールバスの導入によって②

東地区の保護者・地域の皆さん

- ・ 朝バスに遅れると、原則学校まで送っていただく
- ・ 参観、行事、会議に行くのに時間がかかる
- ・ 東地区から学校までのバスの便が少ない

行政にとって

- ・ スクールバスの購入・運営経費(6台～8台)
- ・ バス待機場・駐車場の確保
- ・ 専任担当者の配置



地域とともにある学校づくり(1)

「歩いて通える、学校が近くにある」

- ・ 子ども達の通学に要する負担が少ない
- ・ 子ども達が登下校時に時間的な制約を受けにくい
- ・ 保護者、地域の方々に来校していただきやすい
- ・ 地域の方々に学校施設等を活用していただける



地域とともにある学校づくり(2)

「地域の方々と 協働した取り組み」

- ・ 地域の自然や文化、生活の営みが身近にある
- ・ 地域の特色を教育活動や学校行事に活かしやすい
- ・ 友達や地域の方々と交流しやすい
- ・ 保育所等とも連携しやすい



地域とともにある学校づくり(3)

「東西の交流を通じた取り組み」

- ・ 地域に応じた特色ある教育ができる。
校外学習や体験学習で互いの地区で交流する。
児童、生徒会サミットを定期的に東西で交流するなど。
- ・ 体育、文化的、宿泊行事や修学旅行などを
東西合同で企画し実施する。
- ・ 部活動を土日、長期休業中、合同練習などで交流する。
- ・ 部活動の在り方
→ 国でも検討中、学校運営協議会でも論議。
- ・ 東西でスカイプ(web映像配信)などを活用し、
合同授業を行う。

地域とともにある学校づくり(4)

「地域とより連繫した教育の推進」

- ・ 保幼小中一貫教育と地域と共にある学校づくり

1) 教職員(公立学校異動のルール)

- ・ 新規採用は、4年から6年
- ・ 同じ学校では、6年から8年

→ 町内2校／郡内3校の一貫校で、
研修・交流・異動が出来る。

→ 地域を理解し、地域と密着し、
子どもに寄り添った教育が出来る

学校再編に向けての検討

(学校運営協議会を中心に検討)

＜検討課題＞

再編までの間(小規模化への対応)

- ・ 東地区 … 小学校高学年から順次中学校への検討
- ・ 西地区 … 西地区3小学校の再編について
- ・ 共通課題…小中、東西地区間での行事等の在り方
スクールサポーター等の充実
- ・ 工事・改修中の教育活動の在り方

児童・生徒の減少への対応

(できることから進める)

「町長、町長部局との連携を通じて」

- ・「魅力ある学校園所づくり」を推進
- ・様々なイベントや行事を通じて、
交流人口・関係人口を増やす
- ・子育てしやすい町づくりを進める
- ・小規模校特認制度の導入(再編後)
- ・高校生や若者と連携した取り組みや支援



すべては、豊能町の未来を担う

こども達のために



豊能町教育委員会主催

～豊かな自然と豊かな人材で豊かな子どもを育てる～

第1回 教育フォーラム IN とよの

◎講演
「地域とともにある学校づくり(コミュニティ・スクール)の考え方・進め方」

東京都三鷹市教育長 貝ノ瀬 滋 氏
(文部科学省 視学委員 コミュニティ・スクールの第一人者)

◎パネルディスカッション
「豊能町で地域とともにある学校づくりを推進するために必要なこと」

コーディネーター: 東京都三鷹市教育長 貝ノ瀬 滋 氏
パネリスト: 校長代表、PTA会長代表、
自治会会長代表、
能勢ささゆり学園学校運営協議会代表、
学校支援コーディネーター代表

日時: 令和2年 2月15日(土)
開場13時 開演13時30分

場所: 豊能町立ユーベルホール 大ホール

対象: 豊能町住民の皆様、保護者の皆様、教職員、豊能地区の教育関係者等

日 程

令和2年 2月15日(土) 13:30～16:30



- ・オープニングセレモニー 13:30～13:40
(豊能こども文化館 本館集団)
- ・はじめのあいさつ 13:40～13:50
- ・プレゼンテーション(豊能町教委) 13:50～14:10
- ・貝ノ瀬 滋氏 ご講演 14:15～15:25
- ・パネルディスカッション 15:40～16:25
- ・終わりのあいさつ 16:25～16:30

【講師】 貝ノ瀬 滋 (三鷹市教育長)



北海道三鷹市出身。
中央大学卒。東京都立小学校教諭。高久留米市教育委員会指導主事等を経て、1998年から三鷹市立第四小学校校長。その後、三鷹市教育長、同教育委員会(現在退任)に就任する。

中央教育審議会委員や国の教育再生実行会議委員に就任。
また、全国コミュニティ・スクール連絡協議会会長なども(現在、顧問)を務め、文部科学省参事を経て、現在、視学委員を務めている。



【お問い合わせ先: 豊能町教育委員会 教育支援課 (TEL 072-739-3427)】